優秀賞

けいてぃからもらった宝物

小林　登喜代

柳田邦男先生、初めまして。私は、５歳の息子と２歳の娘の母です。

先生の「絵本には不思議な力があります」という言葉をひしひしと感じております。

私は、昔から本が大好きで、小学生の頃は暇さえあれば本を読んでいたことを覚えています。ただ、絵本となると、残念ながらあまり読んでもらった記憶はないのです。しかしながら、ふとした拍子にきれいな絵が思い浮かんだり、絵本の中のフレーズがフッと頭をよぎったりするのは、幼い頃に読んでもらった様々な絵本が心の奥底に残っていると確信しています。そして、本が大好き、というのも、物心つく前から様々な絵本を読んでもらっていた影響と思っています。

私が生まれ育った場所は、図書館までも車で１５分ほどの距離にあり、専ら学校の図書室を利用したものでした。

今住んでいるところは、自転車を使えば５分程度で図書館に着きます。この様な恵まれた環境で妊娠中から、図書館に出入りしていたこともあり様々な絵本に出会うことが出来ています。

おかげで、子ども達は絵本が大好きで、毎日少なくとも一冊は読み聞かせをしています。図書館で借りた本の中で、特にお気に入りの本は繰り返し借りるのですが、その中でも、特に気に入った作品で購入した絵本が数冊あります。

その中の一冊が、「はたらきもののじょせつしゃけいてぃ」です。二年まえの冬、息子が三歳のときのことです。働く自動車が好きな息子が、図書館で表紙を見て一目ぼれして借りた絵本です。三歳の子どもにとっては、文字数も多く、まだ早いのではないかと心配しましたが、読み始めると食い入るようにしてじっーと聞いていました。大雪が降った「じぇおぽりす」の街を除雪車の「けいてぃ」がたった一台で雪を掻き退けていくというお話ですが、読んでいくうちに、私の方も話に引き込まれていきました。この先、どうなっていくのだろう、というワクワク感を子どもと一緒に感じながら読み進めていきました。絵もとてもきれいで、どんどんと引き込まれ、それぞれのページをずっと見ていてもいろいろな発見があり、本当に楽しく感じました。

また、頑張り屋のけいてぃが、雪にうずまって動けない街のみんなの為に、ただ黙々と働く姿には非常に感動し、絵本を通して「ひとのために頑張る素晴らしさ」を子どもに感じてもらえたらなぁと思いました。また、大人である私も、除雪車としての役割を精一杯全うしているけいてぃの姿から、家族のため、子ども達のために毎日を精一杯生きようと思えました。

息子も、この絵本から様々な発見があったようで様々な疑問を投げかけてきました。その中の一つに、「こんなにも雪が降ることがあるの？」というものがありました。確かに、東京に住んでいては、それほどの大雪にはなりません。そこから、また、会話が弾みます。絵本を通して、親子の会

話が底なしに広がっていくのを感じます。今では、下の娘も一緒になってこの絵本を楽しんで読んでいます。

このように、子どもと一緒に過ごす絵本の時間はかけがえのないものです。私が、両親に読んでもらった読み聞かせの宝物を、今度は子ども達に渡していきたいと思います。そして、これからも色んな絵本に出会えることを楽しみにしています。